

協働評価シート

事業名		高齢者の楽しみづくりと さんさん産直市活性化事業	実施年度	平成 29 年度
部 局		福祉部	課 所	地域包括支援センター
団体等の名称		NPO法人 ひらめき		
評価項目			評価者	評価
相互理解	それぞれの特性や立場を理解し合えたか	お互いの特性や立場を十分に認識、尊重して、事業を実施することができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
対等	双方が対等の立場に立っていたか	対等な立場で協議、事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
自主	市民の自主的な活動が尊重されたか	自主的活動を十分に活かして事業効果を増加させたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
自立	市民の自立化を阻害しなかったか	依存体質が助長されるなど、市民の自立化が阻害されることがなかったかどうかを評価。（新たな自発的事業展開につながり自立化が進んだ場合はA評価）	団体等	A
			市	A
目的共有	双方が協働事業の目的を共有できたか	協働事業の目的は十分に共有して事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
情報共有	双方がお互いの情報を共有できたか	情報を十分に共有しながら事業実施ができたかどうかを評価。	団体等	B
			市	B
公開	双方の関係を十分に公開できたか	全て公開され、利便性も高いかどうかを評価。	団体等	A
			市	A
「相乗効果」が発揮され、独自で行うよりも効果的と認められるか		「相乗効果」が十分に発揮され、協働が効果的と認められるかどうかを評価。	団体等	A
			市	B
市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたか		十分に市民の関心や参画意欲を引き出す事業展開がされたかどうかを評価。	団体等	A
			市	B

事業の目的、目標が達成されたか、どのような成果があったか、具体的な改善点等があれば記載（自由記述）

<p>団体等</p>	<p>高齢者の楽しみづくりという点では、参加された方は産直市に出掛けることを楽しまれ、「また誘ってね。」という言葉も聞け、また高校生ボランティアとの交流も楽しかったようで達成できた。産直市の活性化ではイベント会議に参加し、高齢者の感想を話すことはできたが、店舗の減少もあり、他のイベントと重なった時には閑散としていたので、活性化を図ることはできなかった。</p> <p>また、参加者の呼びかけも民生委員に依頼をしたが、十分には広報できなかった。しかし、高齢者センターで参加者を呼び掛け、行きたい人が仲間を誘って参加する人もいたり、高齢者の興味の差もあることがよくわかった。ほぼ無名の団体が事業をすることの困難さを感じながらも市との協働事業で担当職員に助けをもらいながら一年間事業できたことに感謝しています。</p>
<p>市</p>	<p>参加者はさんさん産直市での買い物等を楽しむことができおり、高齢者の楽しみづくりという点は達成できた。また、市内の高校生のボランティアに買い物の同行で参加してもらい、参加者の楽しみづくりと産直市の活性化の両面でより良い効果を得られた。</p> <p>市政だより等で周知啓発を行うことで、より多くの市民に事業について知ってもらうことができたが、その一方で1回につきの参加者人数の平均が10人程度と定員の18人には届かず、市政だより・市のホームページ以外での周知・啓発の方法をとる必要があったと考える。</p>
<p>相互協議 結 果</p>	<p>市と団体が連携することにより、周知・啓発の活動と、高校生のボランティアにも参加してもらうこと等ができた。</p> <p>高校生ボランティアと交流しながら買い物を行った結果、参加者からの「楽しかった」「また参加したい」といった感想や、複数回参加した人もいたことから、参加者にとって楽しい時間を提供することができ、高齢者の楽しみづくりという点は達成できた。</p> <p>さんさん産直市の活性化という点では、一定の参加者数の確保と運営側に参加者からの感想を伝える事ができたが、一年を通して産直市自体の大きな改善は見られず効果は薄かった。</p>